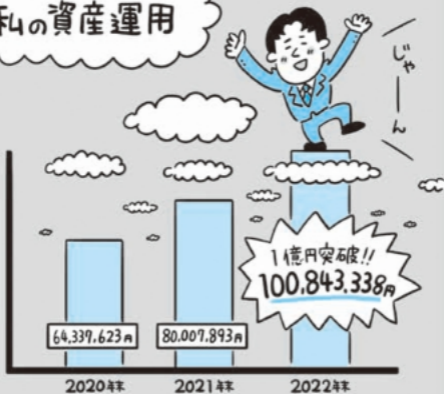


私の資産運用



本書を手にとりいただき、
ありがとうございます！
私は、日本の配当株メインの個人投資家。



2022年の税引き後の配当金は
282万5,128円。
月平均にすると、23.5万円。
こうしてお風呂に入っているときも
「株を持っている」それだけで
「ほぼ自動」でお金が入ってきます。



さて最近、この質問をよく受けるようになりました。「インデックスと配当株はどっちが儲かるの?」



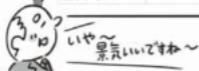
これは難題。一概には答えられません。



でも、「配当株の長期リターンは捨てたもんじゃない」というのは、真実。実際、過去10年間における私のポートフォリオの幾何平均リターン（複利効果込みの年平均リターン）は日経平均を3.86%上回りました。この「インデックス or 配当株」問題は、第7章にて、2024年施行の新NISA活用法とあわせて、もっと深掘りします。

投資リターン（2022年12月30日現在）

	日経平均	NYダウ平均	私のポートフォリオ
2013年	56.78%	26.50%	49.35%
2014年	7.08%	7.52%	17.27%
2015年	9.07%	-2.23%	17.74%
2016年	0.42%	13.42%	2.74%
2017年	19.10%	25.08%	17.70%
2018年	-12.08%	-5.63%	-12.86%
2019年	18.20%	22.33%	20.74%
2020年	16.01%	7.25%	-2.15%
2021年	4.91%	18.73%	18.82%
2022年	-9.37%	-8.63%	16.28%
幾何平均リターン	9.64%	9.74%	13.50%



この差 3.86%!



さて前作の技法は
「20の配当株を「暴落」のときに
買ったたりして、積み立てる」という
超シンプルなもの。



本書では企業分析について、
より深く書きました。
その目的は「割安買い」。
暴落はしてないけどおトクな株、
つまり「割安株」が見抜ければ、
儲けの機会はぐっと増えるからです。



「前の本も買わないといけなの? めんどっ」
と思った君、ご安心を。



本書でも、前作のポイントは、
ギュッと濃縮して書いてます。
つまり、これ1冊で私の投資技法は、
ほぼコンプリート。
完全栄養食ならぬ、
完全投資書といえましょう。



デメリットは、
前回の技法ほどラクではないこと。
そういう意味で「半オート」。



単純に「ラクさ」だけを求めるなら、
前作1冊でOKかもしれません。
でも、「じゃあ、前の本でいいや」と思った君、
ちょっとストップ。



漫画冒頭の私の資産推移を見てください。
お金が雪だるま式に増えているのが
お分かりでしょうか。
毎年1000万円以上のアップです。
当然、運もあります。
でも、投資は長く続けるほど、
そして学ぶほど、
勝つ確率は高まります。



世界最高の投資家、バフェットの富の9割も
50代以降に築かれたといわれています。
投資を始めるのに、遅すぎることはありません。
配当投資にご興味を持った方、
ぜひ、もう少し読み進めてみてください。
あなたの人生を変えるかもしれないので。

